

復帰 50 年

5・15 平和とくらしを守る県民大会宣言 (案)

今日、沖縄は、1972 年 5 月 15 日の「祖国」復帰から 50 年を迎えました。

1945 年の沖縄戦終結から 27 年に及ぶ米軍統治の下、住民の人権は蹂躪され、「自治は神話」と言い放った高等弁務官の発する布令・布告の紙切れ 1 枚で土地が強奪され、米軍基地は拡張を重ねました。

1960 年に創立された祖国復帰協議会は、1947 年 5 月 3 日に施行された、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義を高らかに謳う日本国憲法・「平和憲法」を持つ「祖国」日本への復帰を求めて運動を積み重ね、復帰を実現しました。しかし、基地のない沖縄を求めた私たちの希望は打ち砕かれ、政府の約束した「核抜き本土並み」返還さえも反故にされています。

だからこそ、1978 年 5 月、私たちは復帰から 5 年を経ても変わらぬ基地の島沖縄の内実を問い直すべく、平和行進を歩きはじめたのです。

復帰から 50 年を経た今日、日米政府における復帰「密約」によって日米安保条約・日米地位協定に法的根拠を与えてしまったかのごとき米軍基地の「自由使用」がまかり通っています。1972 年から 2020 年までの県警による統計によると基地から派生する事件・事故は 6,000 件を超え、なかでも殺人・レイプなどの凶悪事件は 580 件を超えています。

道路や港湾、空港などの基盤整備が進み、年間観光客は 2019 年までに 1,000 万人に達するなど、経済的に大きく成長した面もあり、雇用や失業率も一定の改善がみられます。ところが県民所得は依然全国平均を下回っていて、必ずしも生活の豊かさには結びついていません。加えて、コロナパンデミックによるこの 2 年間、県民生活はさらに悪化し、観光業依存型経済の脆弱さが露呈しています。基地依存型経済をつくりだしてきた米軍支配の 27 年、それを引き継いだ日本政府による、50 年にわたる基地維持を前提とした沖縄振興の弊害があらわになっています。

私たちは、基地の島沖縄を平和な島にかえていくべく、日米両政府への抗議や要望を積み重ねてきました。その民意はないがしろにされ、オスプレイの配備、辺野古新基地建設や先島へのミサイル基地配備が強行され、沖縄は米軍と自衛隊、日米の軍事要塞と化しています。2022 年の今日、沖縄返還密約により日本全土を米軍が自由に使えるという、当初米軍が目論んでいた状況が現出。全国連帯の運動がますます求められています。

玉城デニー沖縄県知事は、復帰 50 年にあたり、基地のない平和な島などを柱とする「平和で豊かな沖縄の実現に向けた新たな建議書」を策定し、日米両政府に提出しました。復帰前年の 1971 年 11 月、琉球政府・

屋良朝苗主席が提出した「復帰措置に関する建議書」に託された基地のない平和な島はいまだ達成されていないとして、あらためて辺野古新基地建設の断念や日米地位協定の抜本的改定と同時に民意の尊重を強く求めているものです。

私たちは、玉城知事が魂をこめて策定した新たな建議書を支持し、その実現をめざしていくとともに、県民大衆の英知により骨肉化されていくことを期待します。

ロシア・ウクライナ戦争が止まりません。ロシア戦勝記念日の9日、プーチン大統領は、「昨年12月、ウクライナに対し安全保障に関する様々な提案を行ったが無駄だった」と、軍事侵攻を正当化しています。一方で、ウクライナのゼレンスキー大統領も「正義」の戦争だと言わんばかりに、欧米からの武器提供は当然のごとく戦闘態勢を強化しています。疑問を感じざるを得ない日本をはじめ国連や欧米諸国の対応もあり、戦争は長期化の様相を呈しています。

ロシアもウクライナも武器をおけ。戦争を放棄せよ。外交による平和的解決のみが、両国の市民の犠牲をなくし、ひいては21世紀の世界市民の希望になる。私たちは、憲法9条を守る立場から、そのことを訴えていかなければなりません。

日本政府及び欧米諸国は、ここを先途とばかりにますます軍備を増強し、戦争の準備を進めているかのように見えます。国内でも核共有論が跋扈し、先制攻撃を正当化する論理がまかり通っています。7月に控える参議院選挙の結果次第では、安全保障関連法をも凌ぐ改憲へと及びかねません。執拗に「台湾有事」に触れ、それは「日本有事」だと煽動する日米の政治家たち。そうなれば南西諸島、なかでも与那国、石垣、宮古島が最前線の戦場となるでしょう。日本有事であれば、米軍基地の存在する、三沢も横田も横須賀も岩国も標的になります。自衛隊基地しかりです。抑止力は万能ではありません。

私たちは、沖縄を、日本を、戦場にさせてはなりません。戦争をさせてはなりません。

復帰とは平和憲法に還ることでした。その平和憲法が最大の危機を迎えている今日、それを守り抜くことが、50年のち「復帰して良かった」と心から喜びあえる日につながります。

県民大会の参加者一同は、基地のない沖縄、平和な日本、戦争のない世界をつくるために力を尽くすことを、全国の、そして世界の友人に誓います。

2022年5月15日

復帰50年 5・15 平和とくらしを守る県民大会 参加者一同